

国立国語研究所学術情報リポジトリ

One child's Kanji reading ability

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村石, 昭三, MURAISHI, Shōzō メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001096

一 児童の漢字習得

村石 昭三

1. はじめに

本研究は、文部省科学研究費補助金特定研究(1)「常用漢字の学習段階配当のための基礎的研究」(課題番号59127012)の一部であり、中学1年生10名及び高校1年生10名に対して、常用漢字全数の字種別読み調査を行った。ここでは、特定児童W男という一児童に関する漢字習得の報告である。

2. 調査の目的

(1) 児童が小学校終了段階で、どれだけの漢字の読みを習得しているかを特定個人について、常用漢字1945字の読みをどれだけ習得しているかを明らかにする。

(2) 併せて、その文字がどの語を背景にして読まれているかの漢字使用を明らかにする。

3. 調査手続き

- (1) 被験者 W男 昭和46年10月31日生まれ、男。東京都北区立中学1年
知能偏差値 47 (都研式知能検査SS, 昭和58年6月, 小学校で実施)
52 (都研式知能検査SS, 昭和59年4月, 現在校で実施)

国語 評点 3 (五段階評価, 小学校指導要録による)

得点 46 (平均点45, 昭和59年6月, 現在校で実施)

被験者W男は知能偏差値及び国語テスト評点並びに得点から見て、現在校で中位にあると認められる。

(2) 調査日 昭和59年 5月

調査の目的からは、調査日は年度末の小学校での授業の完全な終了時とすることが望ましいが、実施上の困難を伴うため、中学1年生を対象にし、新年度の授業による学習効果が生じない期間内として、5月を調査日とした。

(3) 調査文字 常用漢字1945字

1945字の常用漢字の各字種を15枚のテスト用紙に印刷。配列は学習漢字と学習外常用漢字とに分けた上で、ランダムに行った。

(4) 調査方法

個人面接テストの調査方法をとった。1名につき、3日間 計約3時間。テスターは国研所員及び調査員であり、生徒の口答反応は録音器に収録された。

(5) 教 示

- 「これから、いろいろな漢字を読んでもらいます。私が漢字の番号を言いますから、その漢字の読み方を知っていたら、どんな読み方でもいいですから、「〇〇の××」たとえば、「大学のダイとか、「大きいのおお」というように、どれか一つで読んでください。」
- 「もし“〇〇の”ということばが思い出せないときは、その漢字の読みだけでも結構です。」
- 「あとから思い出した場合は、その漢字の番号を言ってから読んでください。」

(6) 読字反応コード

コード	反 応
1	熟語○ 読み○
1'	語 ○ 読み○
2	語なし 読み○
3	語 × 読み○
4	語 ○ 読み×
5	語 × 読み×
6	語なし 読み×
7	無答

凡 例

- (学) 学問のガク
- (菊) きく
- (激) はげしい
- (効) 交替のコウ
- (惑) 誘惑のユウ
- (根) 制限のゲン
- (盤) パン

4. 調査結果

(1) W男の読字反応

W男が各字種ごとに示した読字反応を学習漢字、学習外常用漢字及び常用漢字に分け、各コード別に反応の頻数をあげれば、表1の通りである。

表1 W男のコード別読字反応

コード	学習漢字	学習外常用漢字	常用漢字
1	258	98	356
1'	466	181	647
2	216	126	342
3	11	16	27
4	4	8	12
5	7	17	24
6	28	71	99
7	6	432	438
計	996	949	1945

表1によれば、W男が常用漢字1945字について、教示に従って、あげた語例を正しく、かつ読みも正しい語種(コード1, 1')は1003字、語例はないが、読みが正しい字種(コード2)は342字、語例は正しくないが、読みが正しい字種(コード3)は27字であり、これらを正反応とすれば、

W男は1372字、すなわち、常用漢字全体の70.5%を正しく読めたことになる。なお、学習漢字内では951字、すなわち学習漢字全体の95.5%、学習外常用漢字内では44.4%(421字)を正しく読めたことになる。

表2 W男の音訓別読字反応

字種 音訓	学習漢字	学習外常用漢字	常用漢字
音	541(54.3)	243(25.6)	784(40.3)
訓	410(41.2)	178(18.8)	588(30.2)

表2は、読字反応コードの1~3、すなわち正反応と認めた1372字について、音読みか訓読みかによって分類したものである。これ

によれば、音読みは、40.3%、訓読みは30.2%を占めており、音読みが比較的多く、訓読みは音読みの74.9%を占めている。学習漢字と学習外常用漢字では、訓読みの割合が音読みに比べて、学習漢字の方がわずかに比率的に高いという程度であり、統計上有意な差は見られない。

(2) W男の語反応分類

W男の読字反応がどのような語を背景にして行われたかの語反応を、国立国語研究所「分類語彙表」に従って、コード1～3反応の1372語について分類すると、表3の通りである。

表3 W男の語反応——分類語彙表による

	分類番号	項 目	反 応 数
1 体 の 類	1. 1 0 0	抽象的關係	230
	1. 2 0 0	人間活動の主体	121
	1. 3 0 0	人間活動, 精神および行為	213
	1. 4 0 0	生産物および用具	113
	1. 5 0 0	自然物および自然現象	184
2 用 の 類	2. 1 0 0	抽象的關係	85
	2. 3 0 0	精神および行為	86
	2. 5 0 0	自然現象	22
3 相 の 類	3. 1 0 0	抽象的關係	59
	3. 3 0 0	精神および行為	19
	3. 5 0 0	自然現象	13
4 そ の 他	4. 3 1	間投および表現態度	1-1

表3に従えば、体の類に含まれる語反応が最も多く、861語を占め、次いで用の類が193語、相の類が91語、その他が1語となり、体、用、相の割合は75.2%、16.9%、7.9%である。なお、

1372語のうち、分類語彙表と対応のあったものは1146語であり、読字反応では正反応であるのに、対応する分類番号のないものは226語であった。

5. 結果に対する考察と問題点

本報告は小学校児童が卒業時において、どれだけの漢字をどのような語を背景にして、その読みを習得しているかを、W男という一中学1年生に対して実施した報告である。ここには、対象にした漢字の字種が常用漢字に限られ、常用漢字外の漢字は含まれていない。また、調査条件から見て、小学校卒業時と中学1年生になった5月時との時期的な違いによる若干の差が結果に生じることも考えられるが、すでに指摘したように、中学1年の授業効果の生じない許容範囲内とみられるから、本調査の結果は一児童の小学校卒業

時の漢字の読み習得量として位置づけることが可能であると思われる。

表1のW男のコード別読字反応から、W男は常用漢字1945字のうち、70.5%に当たる1372字を正しく読んでいる。そしてそれは学習漢字では95.6%、学習漢字外常用漢字内では44.4%を正しく読んでいることが明らかになった。そこでこれは次の2つの点から考察する必要がある。すなわち、第1は、本調査はW男を含めた中学1年生10名、高校1年生10名について同時に実施しているので、それらと比較することにより、W男の結果が全体の中で占める位置がはっきりされるであろう。第2は、小学校卒業時（中学校入学時）にどれだけの漢字習得があるかの先行文献と結果を比較する必要がある。これについては、例えば、国立国語研究所「中学生の漢字習得に関する研究」（昭和46年3月）によれば、8名の被験者のうち、最高1637字（教育漢字880字、当用漢字757字）、最低1149字（教育漢字842字、当用漢字307字）とある。もっとも、調査方法などに異なる点があって、例えば提出漢字が本調査では字種ごとであるのに、上述の調査では語形だから、結果にその差が生じるのは当然である。そこで、それらを勘案した上で、文部省学習指導要領に示された第6学年〔言語事項〕（1）ウ「学年別漢字配当表の第1学年から第6学年までに配当されている漢字を含めて1,000字ぐらいの漢字を読み、その大体を書くこと。」に対応させて考察することになる。

次に、表2の音訓別読字反応をみると、音訓別の読みの割合は常用漢字全体では、その比率は音読みに対する訓読みの割合は74.9%になって、音読みの方が多く、これを学習漢字と学習外常用漢字と別々に見ても大きな変化は見られない。しかし、習得漢字が増大すれば、音読みの割合がさらに高まることが推測される。なぜなら、漢字語彙は和語よりも漢語の習得によって増大するだろうし、また、本調査の教示にあるように「○○の××」という反応は漢語反応を誘因するように考えられるからである。これは高校1年生と結果を比較することで明らかになるだろう。

次に表3の語反応を分類語彙表によってみると、コード1～3反応の1372語のうち、分類語彙表と対応のあったものが1146語であり、そのうち、75.2

%が体の類に属していた。もともと、諸種の文字あるいは語連想実験結果では名詞反応が優位を占めている事実と符号するものであるが、別に語反応のみを求めて得た場合、単独では比較的名詞の範疇で処理することが多いこともある。ただ、W男の語反応に対する体、用、相の各類の割合がどの程度の一般性を持ち、かつ、学年によってどのように変化するかは、他の被験者との結果の比較から得られることになる。

ところで、本調査で語反応を求めたのは、児童・生徒の漢字習得は一定の語彙習得と関係し、かつその語彙は一定の認知の世界を背景にしていると考ええる。したがって、ある漢字の読みの習得は単に字画の複雑性といった物理的属性に加えて、認知的側面に注目する必要がある、この点で、語反応の分類語彙表による分類は認知の世界の構造とその発達にある種の手がかりを得ることができるだろうし、漢字習得からみた語彙習得の順序性にもある種の示唆が得られると思われるので、今後の課題とする。また、表1のコード別読字反応を見ると、コード1'はコード1に対して約2倍の反応になっている。コード1'は「○○の××」といった反応をしないで、単に例えば「歩く」「菊」と反応したものである。この反応が多いことは1つには教示条件の不徹底さによることもあるが、「歩く」のように「歩くのある」と答える不自然さにもよるだろう。また、別に、中学生では特定の漢字が特定の漢字語彙との結合度や代表性が十分でないことも考えられ、高校生の場合にはこの点での発達変化があるか、今後の課題とする。

なお、調査法上の問題点として、調査期間が3日間にわたったことから、第2日目以後の調査に備えて、あらかじめ家庭学習などが試みられることが考えられたが、もし、試みられたならば、テスト日による結果の差が生じるはずである。そこで、第1日目、第2日目、第3日目に実施した学習外常用漢字テスト用紙各回2枚分、計270字分について有意差検定をした結果は、 $\chi^2=0.36$ $P^2<0.90$ $df=2$ となり、有意な差は認められなかった。したがって、家庭学習など学習効果は現われていない。

別表はW男の常用漢字反応表である。配列は学習漢字と学習外常用漢字と

に分け、さらに学習漢字は配当学年ごとに分けた。そして、正反応(○)、誤反応(×)、無反応(N)別にし、各字種は五十音順として、正反応、誤反応にはそれぞれ反応語を付記した。

別表 W男の常用漢字反応表

・ゴチック漢字は誤用または常用漢字の音訓外
・一はその部分の読み

第1学年 76字中 ○反応76 ×反応0 N反応0		四糸字耳七車		町		まち		第2学年 145字中 ○反応144 ×反応1 N反応0		教玉近形計元		教える		寺自時室社弱		てら みづか 自ら とき 図工室 シャ 肉弱強食	
○反応		手十出女小上森人水正生青夕石赤千川先早足村大男中虫		入年白八百文木本名目立力		町		○反応		原戸古午後語工広交光考行高合谷国黒今才作算止市思紙		もと		弱		肉弱強食	
一	イチ	て	ジュウ	入	入る	入	入る	引	引く	原	原っぱ	首	くび	秋	あき	秋	あき
右	みぎ	で	おんな	年	ネン	年	ネン	雲	くも	戸	コ	秋	あき	春	はる	春	はる
雨	アメ	おんな	こ	白	しろ	白	しろ	遠	遠い	古	ふる	春	はる	書	書物	書	書物
円	エン	こ	うえ	八	ハチ	八	ハチ	何	なん	午	ゴ	書	多少	少	多少	少	多少
王	オウ	うえ	もり	百	ヒャク	百	ヒャク	科	理科	後	あと	場	ジョウ	場	ジョウ	場	ジョウ
音	オン	もり	ひと	文	モン	文	モン	夏	なつ	語	ゴ	色	いろ	色	いろ	色	いろ
下	した	ひと	みず	木	キ	木	キ	家	家畜	工	コウ	食	食べる	食	食べる	食	食べる
火	ヒ	みず	セイ	本	ホン	本	ホン	歌	うた	広	広い	心	こころ	心	こころ	心	こころ
花	ハナ	セイ	生きる	名	ナ	名	ナ	画	ガ	交	交通	新	シン	新	シン	新	シン
学	ガク	生きる	青い	目	メ	目	メ	回	回る	光	ひかり	親	おや	親	おや	親	おや
学	ガク	青い	夕日	立	タツ	立	タツ	会	カイ	考	考える	親	おや	親	おや	親	おや
気	キ	夕日	いし	つ	ツ	つ	ツ	海	カイ	行	行	親	おや	親	おや	親	おや
九	キュウ	いし	赤い	ち	チ	ち	チ	絵	エ	行	行	親	おや	親	おや	親	おや
休	キウ	赤い	セン	から	カラ	から	カラ	貝	かい	高	高い	教	かず	教	かず	教	かず
金	キン	セン	かわ	森	シン	森	シン	外	そと	合	合う	西	にし	西	にし	西	にし
空	ソラ	かわ	き	林	リン	林	リン	楽	たの	谷	たに	声	こえ	声	こえ	声	こえ
月	ツキ	き	わ	六	ロク	六	ロク	間	あいだ	国	くに	星	ほし	星	ほし	星	ほし
犬	イヌ	わ	さ	計	ケイ	計	ケイ	汽	あ	黒	くろ	晴	はる	晴	はる	晴	はる
見	ミ	さ	き	×反応	0	×反応	0	車	あ	今	いま	切	きり	切	きり	切	きり
五	イチゴ	き	ソウ	N反応	0	N反応	0	顔	あ	才	さい	雪	ゆき	雪	ゆき	雪	ゆき
口	クチ	ソウ	あ	合計	76字	合計	76字	記	あ	作	サク	船	ふね	船	ふね	船	ふね
校	ガク	あ	むら					帰	あ	算	サン	前	まへ	前	まへ	前	まへ
左	サマ	むら	ダイ					牛	あ	止	トモ	組	くみ	組	くみ	組	くみ
三	サン	ダイ	おとこ					魚	あ	市	シ	走	はし	走	はし	走	はし
山	ヤマ	おとこ	なかし					京	あ	思	シ	草	くさ	草	くさ	草	くさ
子	コ	なかし	むし					強	あ	紙	カミ	多	多少	多	多少	多	多少

太 体 台 地 池 知 竹 茶 昼 長 鳥 朝 通 弟 店 点 電 刀 冬 当 東	ふと からだ ダイ チ いけ 知る たけ チャ ひる 長い とり あさ 通行人 おとうと みせ テン 電撃 かたな ふゆ 当たる エデンの	米 歩 母 方 北 毎 妹 明 鳴 毛 門 夜 野 友 用 曜 来 里 理 話	こめ ホ はは ハウ きた 毎日 いもうと 明るい 鳴く け もん よる の とも 用いる 曜日 来る さと 理科 はなし	安 暗 医 意 育 員 院 飲 運 泳 駅 園 横 屋 温 化 荷 界 開 角 活 寒 感 館 岩 起 期 客 究 急 級 宮 球 去 橋 業 曲 局	い くら 医 者 イ 育 て る 委 員 院 病 院 飲 料 水 運 ぶ 泳 ぐ え き エン よ こ や 温 め る カ 荷 物 世 界 開 く カ ク 活 動 寒 い 感 想 文 館 赤 い わ 起 き る 期 間 キ ャ ク キ ュ ウ キ ュ ウ キ ュ ウ キ ュ ウ は し 職 業 キ ョ ク 郵 便 局	銀 苦 具 道 苦 し い 君 き み あ に 兄 軽 い 血 液 決 め る 研 究 ケン 言 う 倉 庫 み ず う み 公 園 向 か う 幸 せ 〇〇港 番 号 根 元 祭 り こ ま シ 死 因 使 う 始 め る 指 歯 詩 次 事 式 実 写 者 主 守 取 酒	ギ ン 道 具 き み あ に 兄 軽 い 血 液 決 め る 研 究 ケン 言 う 倉 庫 み ず う み 公 園 向 か う 幸 せ 〇〇港 番 号 根 元 祭 り こ ま シ 死 因 使 う 始 め る 指 歯 詩 次 事 式 実 写 者 主 守 取 酒	受 州 拾 終 習 集 住 重 所 暑 助 昭 和 消 商 章 勝 乘 植 申 身 神 深 進 世 整 線 全 送 息 族 他 打 对 待 代 第 題 炭	受 け る 拾 う シ ュ ウ 習 う 集 め る 住 む 重 箱 と こ ろ あ つ 助 け る 昭 和 消 す 商 売 文 章 シ ョ ウ 乗 る シ ョ ク 申 し 込 み 心 身 か み 深 い 進 む 世 の 中 整 え る 全 部 ソ ウ 息 切 れ ソ ク 打 撃 タイ つ 待 たい ダイ ダイ タ	短 着 柱 丁 帳 調 直 追 定 庭 鉄 転 都 度 投 島 湯 登 等 動 童 内 肉 農 波 配 畑 発 反 坂 板 皮 悲 美 鼻 氷 表 秒	短 い 着 く は し ら ウ チ ョ ウ ウ 調 べ る な お 追 う 定 め る に わ テ ッ 転 ぶ み や こ ド 投 げ る し ま ゆ 登 山 斜 影 法 動 く 児 童 ナ イ ク 農 奴 な み 配 る は た け 出 発 反 抗 さ か た わ 劇 ビ は な こ お り て ビ ョ ウ
答 頭 同 道 読 南 馬 売 買 麦 半 番 父 風 分 聞	案 あ た ま ド ウ み ち 読 む み な み う ま る 売 う ぎ む ぎ ハン パン ち ち か ぜ 分 け る 聞 く	計 144	×反応	黄 きいろ	計 1	N反応 0	合 計 145字	学3学年 195字中 ○反応187 ×反応7 N反応1	○反応	悪 アク	

病品	やまい	保持週注役陽 シン まつ アタ シェウ トウ あげる 計 7 N反応 階 計 1 合計 195字 第4学年 185字中 O反応190 X反応5 N反応0 O反応 アイ アン 以上 ころも くらい 囲む 委員 イ するし 英和 榮える しお 中央 オク 加わる 金貨 カ	芽改	め	建建	建建	賞大	典テ	テ	
負部	しな		ソ	改	カ	健	康	臣	伝	つ
服福	負ける		ン	械	イ	驗	ケ	信	徒	た
物平	ブ		シ	害	機	固	固	真	努	徒
返勉	フク		ュ	各	械	功	功	成	燈	ド
放万	大		ウ	覚	ガ	候	成	省	堂	ト
味命	福物		あ	完	カ	航	気	エ	働	ウ
面問	たい		げる	官	ク	康	候	ネ	く	食
麻由	ら			漢	カ	告	や	い	ド	堂
油有	返す		計	管	ン	サ	す	セ	ク	働
遊予	放す		1	関	カ	ナ	告	キ	ト	く
葉様	マン		合	観	ン	最	最	キ	ネ	ク
落流	あじ	計	願	カ	材	材	セ	ツ	ト	
旅	いのち	195字	希	せ	材	木	イ	力	働	
両緑	メン	第4学年	季	き	昨	木	か	念	く	
礼列	問題	185字中	節	キ	刷	夜	か	念	ト	
路和	麻薬	O反応190	節	喜	殺	印	セ	倍	増	
	ユウ	X反応5	節	劇	察	人	キ	倍	キ	
	あぶら	N反応0	節	は	參	警	キ	ハ	ト	
	遊ぶ		節	た	産	察	キ	ハ	ト	
	ヨウ	O反応	節	キ	散	參	キ	ハ	ト	
	は	愛案	節	機	士	散	キ	ハ	ト	
	さま	以	節	械(會)	氏	ら	キ	ハ	ト	
	落ちる	上	節	機	史	ば	キ	ハ	ト	
	流れる	こ	節	械(會)	司	ら	キ	ハ	ト	
	たび	ろ	節	機	姉	ら	キ	ハ	ト	
	リョウ	も	節	械(會)	治	ら	キ	ハ	ト	
	みどり	く	節	機	辭	ら	キ	ハ	ト	
	レイ	ら	節	械(會)	典	ら	キ	ハ	ト	
	列車	い	節	機	失	ら	キ	ハ	ト	
	道路	ん	節	械(會)	借	ら	キ	ハ	ト	
	ワ	員	節	機	種	ら	キ	ハ	ト	
	計 187	イ	節	械(會)	宿	ら	キ	ハ	ト	
	X反応	英	節	機	順	ら	キ	ハ	ト	
		和	節	械(會)	初	ら	キ	ハ	ト	
岸	キ	榮	節	機	唱	ら	キ	ハ	ト	
		塩	節	械(會)	焼	ら	キ	ハ	ト	
		中	節	機	象	ら	キ	ハ	ト	
		億	節	械(會)	照	ら	キ	ハ	ト	
		加	節	機		ら	キ	ハ	ト	
		貨	節	械(會)		ら	キ	ハ	ト	
		課	節	機		ら	キ	ハ	ト	
			節	械(會)		ら	キ	ハ	ト	

后式陸盟	計 5		嫁靴蚊介戒怪悔皆壞懷涯概垣核岳掛喝滑刈甘汗缶肝冠乾貫監還環艦鑑頑奇飢鬼輝騎儀	よめくつかすけち戒カイ後悔皆さん破懷ガイがきカクたける掛滑走路か甘いあせカンキもカン乾燥カンカンカンカン頑望よう奇飢えるおに輝くギ	擬菊吉喫丘巨拒御凶叫狂況恐響眺菌琴偶隅屈掘蕪刑惠掲蜚慶迎鯨擊激肩劍軒堅嫌幻玄	擬問キクキチ喫茶店おかキョキョゴ凶器叫ぶ狂う実況恐ろしいキョウギョウ殺菌効果こと偶然隅屈掘る蕪刑務所ケイ掲示板はたる慶応迎えるくじら撃突かたケンケン堅い嫌いまぼろしゲン	弦ピアノの孤弧枯枯れ葉互互いゴゴコウコウえ抵抗攻更侯洪水荒香項溝稿剛豪獄込恨婚魂佐鎖裁彩催歳載載劑崎醉	咲札惨傘枝紫銅軸湿芝斜煮蛇狩珠寿舟臭汁充柔洪銃獸塾瞬巡緒徐床尚昇松沼症晶彰	咲く札東悲慘かさえだむらさき銅育係シク湿っているしば斜め煮るへび狩猟珠算ことぶきにおいしるみつる柔道洪谷ジュウジュウジュウ瞬間巡査ショ徐徐の間なお昇るまつぬまショウショウ	丈疊繩壞簾錠談殖伸辛侵津唇振紳診寝震陣吹炊醉睡隨隨杉瀬井一征齊昔惜跡撰仙占	ショウタミショウウショウウ手錠ショウク伸びる辛い侵入くちびる振動紳士診断寝るシ地震シ吹く炊飯うスイズイ延髄すぎ瀬戸内海ウ井スキ一征服サイむかし惜しいあと撰政仙占
	合計 190字										
	習外 学漢字 ○反応423										
	○反応										
亜哀違緯半陰隱影越炎宴煙猿緑汚押段桜奥憶架華菓渦	寒帯かな違イイもイン隠すかげ越すほのお宴会けむりさるエン汚れる押す殴るさくらおくオクカカ菓子カ										

煎葦契啓溪携傑儉猷造賢繭頭懸雇誇鼓顛吳娛巧坑拘肯恒郊貢硬紋綱醇衡購拷克酷昆紺

企岐忌祈軌既幾棋棄宜欺儀詰却脚虐朽窮拋虛距亨挾狹恭脅矯凝斤緊謹襟吟驅愚遇繰

閱鉛翁虞卸暇寡箇祿邪餓劾慨該郭隔獲嚇瀉括渴褐轄且陷勘患喚堪換敢棺款閑寬緩憾含

湖ガミ相ボウ ジョウゼン ロン ユイ トウ ヨクシツ レンラク 潜水カン シン キョリ ロン はげしい と さくら
計 96
習外 学漢 N反応429
N反応
握扱依尉偉維慰逸姻韻詠銳疫謁

くちびる ニン かたな サイ かなしい タイ かりる キソ問題 ジュウ道 ボウさん サンセイ シャク たっする ぶた ネリマ タイ のびる ひくい チョウウ おく たいたる 雀タク キョウ マ どろ ヒ ハ カイ ねこ フ ジョウ ベン まく ボウ がけ おしい する

辱娠刃粹衰遂措礎桑僧替択逐陳墜廷抵訂送到倒悼陶篤尼把披被描腐敷併抱俸崩忙堀
トツ なぐる おとめ かくす かつら うず ヌウカイ キ つよし テンコウ ホゴ コウイ うそ ふたたび キョ ケイ むか こう たつき いき うずら カン カ 孫悟クウ あらい ゆるす トクサツ たす ゆび トッ風 ガかぶ イン ス コウ にもの うご

妊寧粘羈排廢輩媒賂迫舶薄漠縛鉢伐罰闕畔撥煩煩繁蠻妃罷避微竇類敏瓶扶赴膚賦侮伏

遲稚蓄秩窒嫡衷鑄弔眇脹超徵澄懲勅朕鎮塚邱貞通艇締撤添吐途奴棟筒騰膺胴匿督屯鈍

織鮮禪漸繕疎訴塑搜插掃曹喪槽即束促賊妥墮惰怠胎泰逮滯拓託濯諾濁但胆嘆誕鍛彈壇

剩釀飾舐嘔浸慎薪尽迅甚尋帥穗錘枢崇据畝姓性逝盛媾誓請斥析隻籍拙窃扇栓踐銑遷薦

儒秀愁醜襲叔淑肅俊旬盾准殉循潤遵庶如叙升召匠抄宵祥涉紹掌硝粧詔獎詳償礁鐘冗淨

墨懇唆碎宰齋債削索擇錯擦皿棧暫旨伺祉肢施嗣雌賜諮侍滋慈璽執漆赦遮勺酌爵寂朱趣

覆紛零憤丙屏幣弊癖捕舖慕簿芳奉胞倣飽褒縫乏妨肪某剖紡傍膨謀朴撲奔翻摩磨抹矛銘

妄耗勿厄躡癒悠猶裕誘憂融譽搖窯擁抑頰酪履疏虜愈涼陵厘累戾隸劣廉鍊漏賄倅

計 429